

式辞

本日、ここに令和三年度群馬県立桐生高等学校第一回卒業証書授与式を、同窓会長宮地由高様、PTA会長後藤圭一様をはじめ、ご来賓の皆さまのご出席を賜り、コロナ禍にもかかわらず、このように厳粛かつ盛大に挙行できますことに、深く感謝し、心から御礼申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与しました全日制課程三百九十二名、通信制課程三十三名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。教職員一同、皆さんの門出を心からお祝いいたします。

また、限りなく深い愛情でお子さまを見守られ、支えてこられた保護者の皆さま、ご卒業、誠におめでとうございませう。このように立派に育まれてきたことに敬意を表すとともに、これまで本校にご協力、ご支援いただきましたことに、心から感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは、新生桐生高校の記念すべき第一回の卒業生であります。百年を超える長い歴史と伝統を誇る桐生高校と桐生女子高校が統合し、本校は開校しました。皆さんは、両校の良き伝統を継承しつつ、自らの手でさらに魅力ある新高校をつくる貴重な機会と捉え、日々の学校生活に取り組んでくれました。新高校初の文化祭「紫鈴祭」を始め、皆さんのリーダーシップのもと、全校一丸となって、明るく前向きに学校生活に取り組む姿は、大変頼もしく、誇らしく感じていました。

卒業生の皆さんは、統合に加え、コロナ禍で、修学旅行や部活動の大会等が中止や変更、臨時休業や分散登校も経験しました。大学入試制度等も変更になり、不安を感じ、苦勞したことが多かったかもしれません。しかし、このような状況の中でも、皆さんは、常に前向きに取り組み、新高校が目指す魅力ある学校の基盤をつくりあげてくれました。皆さんがつくりあげた基盤は、この先、確実に引き継がれていくことでしょう。心から、皆さんの健闘を讃えるとともに、この経験は、これからの社会を生きていくうえで、大きな財産になると確信しています。

現代、そして未来は、「変化」、「多様性」、「予測困難」がキーワードの時代であります。このような時代において、今後活躍することを期待されている皆さんにとっての課題は、「変化をチャンスと捉え、たくましく生き抜く力をいかに身につけるか」であります。そのためには、「自分の中に複数の視点を持つこと、ひとつのことを違った角度から見られること」が必要となります。自分の中に絶対的なものがないのは、不安ではあります。しかし、「その不安の中で、もがきながら耐えること」「絶対のよりどころのない状態をよしとできるように成長すること」が大切です。皆さんは、達成感と挫折感を交互に味わいながら、本校の高校生活の中で、変化に対応できる修正力を身につけ、自分の可能性を広げてきました。全日制の卒業生の皆さんも、通信制の卒業生の皆さんも、新生桐生高校最初の卒業生としてのプライドを胸に、正々堂々と、これからの人生を自らの力で切り拓いていくことを心から願っています。

結びにあたり、皆さんは、今、本校を卒業する感慨に浸っていることと思いますが、この感慨の陰には、これまで育ててくださったご家族の方々、皆さんに関係するたくさんの方々の方々の力添えがあります。そのことに対し、改めて感謝の気持ちを伝えて欲しいと思います。そして、この先、皆さんが、充実した日々を送る姿が、何よりの恩返しとなります。皆さんのこれからの人生が幸多かれと願うとともに、ご来賓と保護者の皆さまに重ねて御礼を申し上げ、式辞といたします。

令和四年三月一日
群馬県立桐生高等学校
校長 竹内 敏彦